

## あなたの島へ婿入りするの

三木 功 (学芸・昭和 38 年卒)

瀬戸は日暮れて夕波小波 あなたの島へお嫁に行くの  
若いと誰もが心配するけれど 愛があるからだいじょうぶなの (瀬戸の花嫁)

大学を卒業して、教員採用試験に合格し、最初の赴任地が小豆島でした。島嶼部では、3年間勤務すれば本土へ帰れるという、暗黙の了解がありました。3年間さえ辛抱したら丸亀へ帰り、両親に孝行をすればいいと思いながら、楽しい教員生活を始めました。いざ務めてみると、島の人も生徒も純朴で、先生という職業は尊敬されていました。どこへ行っても大事にされ、親切に接してくれました。

小豆島は音楽教育が盛んで、最後の勤務校となった苗羽小学校の音楽部は、戦後の昭和 24~25 年から熱心に取り組み、保護者も協力的で、県内外に知られています。小学校にはどこも音楽部があり、器楽合奏や鼓笛隊を編成していました。また、中学校には合唱部と吹奏楽部があり、互いに切磋琢磨して、技術の向上を目指して頑張っていました。私も赴任校の中学校で、前任者から吹奏楽部の指導を引き継ぎ、古い楽器を修理しながら毎日練習に打ち込みました。県下に吹奏楽部のある学校が少なかったこともあり、コンクールに出場するといつもかなり良い成績を挙げていました。そこで、この子供たちを県 3 位内に入賞させるまで頑張って、それが果たせたら故郷へ帰ろうとの目標に向け、日々努力を重ねてきました。この目標は 3 年目に達成できました。するとますます欲が出て、今度は四国で 3 位に入ることを目標に設定しました。翌年これも実現しました。

このように充実した楽しい生活を送っているうちに、養子縁組の話がありました。老夫婦が生きがいを持って生きる目標が出来るのなら、その思いに応じてあげようとの気持ちと、島の人たちとの人間味あふれる暖かい付合いに、このまま島で暮らしてもいいと決心しました。「あなたの島へ お嫁に行くの」ではなくて養子に来てしまいました。養子に入ってすぐ附属坂出中学校から声がかかり、4 年間実家から通うことになりました。この 4 年間だけ実の両親・兄弟と生活しました。転勤した翌年に結婚しました。

昭和 38 年に教職について、現在 77 歳。退職してからも様々な役職をおおせつかり、民生委員児童委員を 15 年間、現在は町社会福祉協議会の会長をはじめ、退職校長会の副会長など、自分でもすべての役職を言えないくらいあります。

音楽の教師をしていた経験を生かし、地域の合唱団の指導をしたり、自宅を新築した際に音楽ホールを作り、ここをホームグラウンドとして 20 名のフルバンドを結成し、練習したりコンサートを開いたりしています。

家族の理解と協力のもと、とても充実した人生を送ってこられたことに感謝しています。